

<実施例 2> 総合的日本語プログラム

報告者：佐屋麻利子（神奈川県立相模向陽館高等学校）

実施校の制度：昼間定時制 学科：普通科 単位履修の仕組み：学年制
対象生徒：2年次 タイプ A（入学時、滞日0～数カ月）
プログラムのタイプ：プログラム B+C・D
実施した科目：学校設定科目「日本語 B」（2単位）
担当者：教諭

2.1 プログラム編成の考え方

（1）日本語基礎の学びを土台に総合的に運用する力を育む

対象は、入学時には滞日歴が短く、日本語の学習も始めたばかりであった2年次の生徒であり、1年を経て、日本語でのコミュニケーションも一定程度できるようになっている。日本語について基礎的な知識・技能を学び、日常場面での情報を理解し、学校行事で日本語を使って参加できるようになることを目指す。プログラムでは、「日本語基礎」に当たる語彙・文法の知識と、「技能別日本語」に当たる書く・話すなどの技能の学習を、学校行事等の活動に関連付けて実施する。日本語能力試験（JLPT）で自分の日本語の力を試す機会も設けた。また、文化祭の掲示物作成、母語を教えるワークショップ等のプロジェクト型の活動も取り入れ、目的に応じて日本語を運用する経験を重ねられるようにした。これらの活動を通じて、自身と向き合い、キャリア意識を形成することをめねらいとしてプログラムを編成した。

実施校の外国人生徒の受入状況と日本語指導

実施校は2010年に県内初の午前部・午後部の二つの部からなる昼間定時制として開校した普通科・単位制の高校である。中学校の時に学習面や対人関係などで様々な悩みや課題を抱えた人が、安心して学習や学校生活に取り組めるよう「ひとり一人を大切にいく教育の実践」を掲げ、自己肯定感を育むとともに、以下の3つの力の育成をめざしている。

「たくましく生きる力」 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことができる力

「社会とかかわる力」 社会とのかかわりの中で自己を成長させ、社会に貢献する力

「思いやる力」 他者を尊敬し、多様性を認め合う思いやる力

不登校だった生徒、高校を退学した経験のある生徒、障害のある生徒、LGBTQ+の生徒、ヤングケアラー等の生活に課題のある生徒など、さまざまな事情を持つ生徒が在籍しており、そのような生徒たちが自己理解をした上で他者を尊重し、多様性を認め合い、ともに生きる共生社会を実現できる力を養うことを目標としている。2023年度卒業生169人の進路状況は、大学・短大21人、専門学校35人、技術校・各種学校等5人、就職68人、進学準備6人、就職準備等34人であり、進学と就職がそれぞれ全体の4割程度、未決定者が全体の2割程度となっている。

開校当初から外国人生徒を対象に「在県外国人等特別募集」という特別入試を行っており、午前部10人、午後部10人の定員が設けられている。また一般募集でも多くの外国につながる生徒が入学しており、2024年5月末の外国につながる生徒の在籍は183人と県内の公立高校では最多の在籍数であり、国も22か国と多国籍である。183人のうち日本語指導が必要な生徒は103人で、特別募集での入学者が54人、一般募集での入学者が49人という内訳になっている。ひとくりに日本語指導が必要な生徒といっても、来日直後でひらがなの学習からの生徒もいれば、幼少期に来日し日常会話に不自由はないけれども日本語で授業に参加するのが難しいという生徒もいる。日本語のレベルだけでなく、学習経験や認知の発達、母語の力など、さまざまな背景の生徒たちが日本語を学んでいる。

（2）育みたい「ことばの力」とプログラムの組み合わせ（卒業までの4年間）

入学時に日本の学校での学習経験・日本語学習経験がほとんどない生徒（Aタイプ）の日本語の授業で

は、卒業までの4年間を見通し、各学年で次のねらいを設定し、日本語の力を段階的に育むことを目指す。

1年では、まず「生活のための日本語」を通して、学校生活に必要な基礎的な日本語の知識・技能を習得する。また「日本語基礎」を通して、各教科の学習のために必要な日本語の習得を目指す。

2年では「日本語基礎」を通して日本語を体系的に学び、日本語能力試験等の資格取得を目指す。さらに学校生活や在籍学級での授業に主体的に参加できるよう、「技能別日本語」「日本語プロジェクト」を通して、場面や目的に応じて自身の考えを適切な文脈で相手に伝えることができる力を養う。

3年では「技能別日本語」を通して、日本語の4技能を場面に応じて適切に運用できる力を身につける。また「日本語プロジェクト」を通して、自分の意見を持ち、これまでに習得した語彙、文型を使って適切に表現できる力を身につける。

4年ではそれぞれの進路実現に向けて、「技能別日本語」を通して日本語の4技能で特に必要な技能を強化する。また「日本語プロジェクト」を通して、複数の言語や文化、価値観の下に生まれ育った経験を活かし、グローバルな視点を持って社会で活躍できる人材を目指して自身のキャリアを構築しようとする態度を養う。

これに基づき、卒業までの対象生徒の日本語学習を、次の図のようにプログラムを組み合わせで設計した。2.4で、資料として、各プログラムで実施している学習活動の例を紹介する。

< 4年間の日本語学習：日本語プログラムの組み合わせ >

	1年	2年	3年	4年
プログラム A「生活のための日本語」				
プログラム B「日本語基礎」				
プログラム C「技能別日本語」				
プログラム D「日本語プロジェクト」				

※ 紹介するプログラムは□で囲んだ部分に当たる。

(3) 外国人生徒等の教育・支援活動(学校全体の取り組み)

実施校では、学校設定教科・科目として日本語の授業を 11 単位分開設しているほか、教科の取り出し授業や、一斉授業での TT の配置なども行っている。また、日本語学習を、教科学習やキャリア(進路)に関連付けた活動、や、かれらの母語・母文化を含む文化的多様性に対する寛容性、つまり、ダイバーシティを推進する活動などにも、学校全体として取り組んでいる。

< 卒業までの指導・支援の全体 >

	科目(単位)／具体的な支援内容
日本語指導 (11単位)	1年 日本語 A(2単位) 生活のための日本語、日本語基礎、技能別日本語、日本語プロジェクト 日本語コミュニケーション A(1単位) 日本語プロジェクト、技能別日本語 2年 日本語 B(2単位) 日本語基礎(35h)、技能別日本語(25h)、日本語プロジェクト(10h) 日本語コミュニケーション B(1単位) 日本語プロジェクト(25h)、技能別日本語(10h) 3年 日本語 C(2単位) 日本語基礎、技能別日本語、日本語プロジェクト

	日本語コミュニケーション C(1単位) 日本語プロジェクト、技能別日本語 4年 日本語 D(2単位) 技能別日本語、日本語プロジェクト
教科学習支援	1年 個別対応授業(取り出し授業)「言語文化」「地理総合」「数学 I」「科学と人間生活」「英語コミュニケーション 1」「保健」 2年 個別対応授業(取り出し授業)「現代の国語」「公共」「家庭総合」「化学基礎」「英語コミュニケーション II」「保健」「情報」 3年 個別対応授業(取り出し授業)「歴史総合」、一斉授業への TT 配置、学校設定科目「多文化交流」「国際食文化」定通併修「国際理解」 4年 一斉授業への TT 配置
母語支援	面談の通訳、保護者への通知の翻訳、日本語の授業内でのワークショップ、中国語・スペイン語・タガログ語サポーター
キャリア支援	2年次 分野別進路ガイダンス、卒業予定者講話 3年次 分野別進路ガイダンス、マネーコネクション 4年次 進学・就職ガイダンス
その他	新入生プレクラス(入学後、授業開始前に実施。1日1h×5日)、放課後・夏期補習、

2.2 実施した日本語プログラム 授業名「日本語 B」(学校設定科目)

(1) 年間指導計画(シラバス)

2年次の授業「日本語 B」(学校設定教科・科目)のプログラムで、日本語基礎の学習(プログラム B)、技能別の力を高めその力を把握する学習(プログラム C)、日本語を使ったプロジェクト型の学習(プログラム D)を組み合わせ、学習内容や活動のまとまりでユニット化して、計画・実施した。日本語基礎の内容としては、体系的に学べるように日本語の初級後半から中級前半の文法項目、漢字語彙を取り上げて配列した。技能別の活動では、日本語能力試験の模試にチャレンジして自身の力を捉えた上で、作文や手紙を書く活動をユニットとして、配置した。また、自分の国紹介、母語を教えるワークショップを通じて、自己を認識し将来像を描くプロジェクト型の活動もユニット化して実施する。

なお、技能別日本語、プロジェクト型活動は、1年次(科目:日本語 A)と3年次(科目:日本語 C)との合同授業として実施する。

①目標

初級後半から中級にかけての文字、語彙、文法事項等を学び、日常的な会話や平易な日本語で書かれた文章を理解することができ、身近なトピックや自身の将来について感じたことや考えたことを話したり作文に表したりでき、学校行事や出身国とその言語の紹介プロジェクトなどに積極的に参加することができる。

②年間指導計画(1科目分)

1 科目名・単位数	日本語 B・2単位(70時間)
2 対象生徒 5人	滞日歴:1年~1年半 日本語の力:日本語初級後半(日本語能力試験 N4)レベル。日常的な場面で直接ゆっくりはっきり話されれば理解できる。単語をつなげて伝えたいことを言うことができる。生活の中でよく使う語彙・表現で書かれた文を理解でき、単文を書くことができる。 母語の力:年齢相応の力があると思われる。 教科等の力:日本語で教科の一斉授業に参加することは難しい。(英語・数学については日本語力以外の点で個人差がある)

3 履修学年	2年次		
4 目標	知識及び技能	思考・表現力・判断力等	学びに向かう力・人間性等
	身近な話題の文章(日常的に目にするレベルの漢字かな交じり文)を読んだり書いたりすることができる。	身近な話題や出身国とその言語、自身の将来について考えたことや関連する情報を、学んだ日本語の語彙・表現、文法規則を応用して伝えることができる。	学んだ日本語で、学校行事や出身国とその言語の紹介プロジェクトなどに積極的に参加することができる。
5 プログラムのタイプ	()A(生活のための日本語) (◎)B(基礎日本語) (○)C(技能別日本語) (○)D(日本語プロジェクト) 主なプログラム:◎ 連動させて行うプログラム:○		
6 主なリソース	プログラムB:初級レベルの日本語の語彙・文法などを取り上げている日本語教科書を参考に、授業者が教材・資料を作成 プログラムC:日本語能力試験の問題集で、読む・聞くスキルに関する部分を利用 プログラムD:学校全体で利用するリソース ルビ振りなどの加工を施して利用		
7 指導計画(シラバス) ※水色は日本語A(1年)、C(2年)との合同授業	ユニット (時)	学習活動・学習項目	
	ユニット1(1-20)	<ul style="list-style-type: none"> ・初級後半文型の定着 可能形、自動詞・他動詞、意向形、条件文 ・日常語彙の学習 ・基本漢字(日本語能力試験 N4程度)の定着 	
	ユニット2(21-26)	日本語能力試験にチャレンジ(模試)	
	ユニット3(27-32)	<ul style="list-style-type: none"> ・初級後半文型の定着 様態、推量、理由、変化 	
	ユニット4(33-38)	自分の国紹介(文化祭掲示物作成) ★ア	
	ユニット5(39-50)	<ul style="list-style-type: none"> ・初級後半文型の復習と定着 受身、使役、敬語 ・日常語彙の定着 ・基本漢字(日本語能力試験 N3程度)の学習 	
	ユニット6(51-52)	母語を教えるワークショップ ★イ	
	ユニット7(53-56)	作文(今年がんばったこと) ★ウ	
	ユニット8(57-66)	<ul style="list-style-type: none"> ・中級前半文型の学習 文末表現(テンス・アスペクト・モダリティなど) ・学習語彙の学習 ・基本漢字(日本語能力試験 N3程度)の学習 ・物語や短い小説を読む 	
	ユニット9(67-68)	漢字確認テスト	
	ユニット10(69-70)	手紙(卒業するときの私へ)	

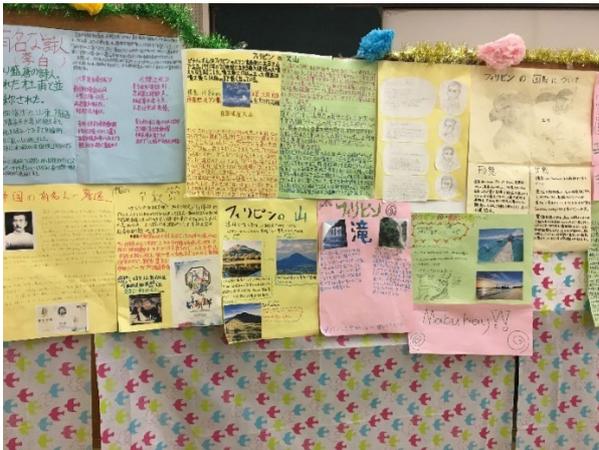
8 評価方法	定期試験(前期期末、後期期末)、授業内試験、発表、成果物(プリント、振り返りシート、文化祭掲示物、作文)
--------	--

(2) 学習活動の実際

年間指導計画の一覧で★を付した活動で、生徒たちが学んだ日本語を生かしつつ活動に参加し、さらに、この活動を通じて日本語の力を高めている様子を、写真などで紹介する。

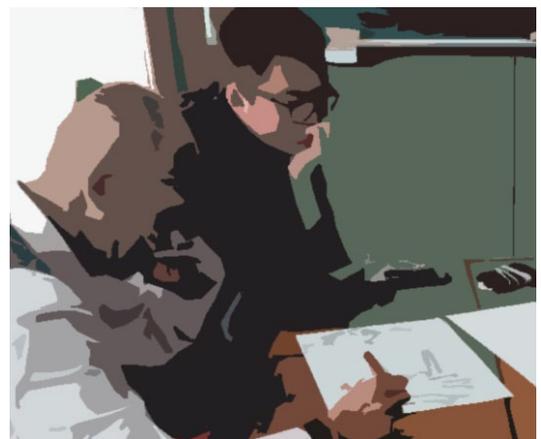
★ア 自分の国紹介(文化祭)

生徒達は何を紹介するか、学年を超えて同じ国の先輩後輩とも相談しながら作成していた。また作成して終わりではなく、文化祭後の授業で発表を行う、さらに当日来場した人に感想やコメントを書いてもらって読むと、活動を発展させた。



★イ 母語を教えるワークショップ

日本語を使わずに、母語で母語を先生に教える活動を行った。自分がどのように日本語を学習したのかを振り返る機会になったり、先生との普段の関係が逆転してお互い大変さがわかったりと、学びが多いワークショップとなった。



★ウ 作文(今年がんばったこと) 生徒の作文の一部(実際には原稿用紙に縦書きで書かれたもの)

向陽館でがんばったこと
わたしは四月に向陽館に入学しました。友達が出来ました。一緒に日本語の勉強をしました。
—略—
十月に文化祭に参加しました。中国について調べました。皆の前で発表しました。恥ずかしかったですが、がんばりました。
十一月の後期中間テストでは数学をがんばりました。点数が上がりました。嬉しかったです。日本語は難しいです。でも少し分かるようになりました。話すのは苦手ですが、がんばりたいと思い

2.3 授業実践例 ユニット5 「受け身」

指導計画の日本語基礎のユニット5から「受け身」の授業(45分×2コマ)を具体的に紹介する。学習指導計画と実際の授業の様子を写真や生徒の成果物で紹介する。

(1) 学習指導計画

①目標

知識及び技能：受け身文の形式と意味を理解し、動詞の受身形を使って受け身文を作って話したり書いたりでき、受け身文を聞いたり読んだりして理解することができる。

思考力・表現力・判断力等：例文をもとに能動文と受動文(受け身文)の構造の違いや、受け身文を使うことによる意味合いの違いについて、分析し、場面に応じて効果的に受身表現を使うことができる。

学びに向かう力・人間性等：ストーリーのある絵(4コマ漫画)の登場人物の心情を推測し、その気持ちを表現する活動で、受け身文を利用することの良さに気づき、積極的に表現しようとしている。

②授業の流れ 45分×2コマ

		生徒の活動	支援・指導のポイント 教材等	
導入	5分	本単元の目標と本時の目標を確認する。 受身形の使用場面を確認する。 「先生に呼ばれる」	学習の見通しを持ち、到達点をイメージできるようにする。 学校生活での使用場面を知り、興味を持てるようにする。	
展開	練習1(受身文)	15分	受身形の作り方 V+れる・られる 提出する動詞の意味、グループ(Iグループ・IIグループ・IIIグループ)を確認した後、受身形の作り方(ルール)を学習する。 グループの種類ごとに変形練習を行う。	動詞はII→III→Iグループの順で練習する。(ナイ形からつくってもよい) Iグループの動詞の活用について、適宜五十音図を確認する。
		5分	動詞のグループ分けを復習する。	必要な生徒は手元にプリントを準備する。
		15分	練習プリントに取り組む。	オーラルだけでなく文字として言語化できるかどうか確認する。
	練習2(受身文)	5分	語彙の確認をする。	受身文をつくる際に使う語彙の意味を確認する。
		休憩		
		2分	本時の目標を確認する。 受身文を確認する。 ～は～に～V+れる・られる	学校生活での使用場面を知り、興味を持てるようにする。
	15分	受身文の作り方	助詞に注意する。	

			イラストを見て能動文→受身文にする。	足立章子他著(2004)『絵で導入、絵で練習』(凡人社)を使用。 慣れてきたら最初から受身文をつくる。
活動	15分		四コママンガを並び替える。 語彙を確認する。 それぞれの場面について受身表現を使って説明する。	一コマずつ拡大印刷し、全体で相談しながら並び替える。
	10分		3コマ目と4コマ目の間に入る場面を考える。 自分の考えた場面を全体で説明する。	イラストを書き、受身表現を使って場面を説明する。
まとめ		3分	まとめと振り返り 本日の学習を振り返る。	本時の目標について達成できたかどうか自己評価する。

(2) 授業の実際

①作成・利用した教材例

②参加した生徒の成果物(ワークシートへの記入例)

I 文を 書こう

① ほえる 1コマ目の絵(犬が吠え、女の子が怖がって)	② 追いはう 2コマ目の絵(男の子がフランスパンを犬に向けてい)	③ たたく 3コマ目の絵(男の子がフランスパンで犬を攻撃して)	④ 逃げる 4コマ目の絵(犬がフランスパンを喰って逃げていく)
--------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------

II ③と④の間に 挿入 がありましたか

③ 3コマ目の絵

④ 4コマ目の絵

③と④の間に起きた出来事を想像し、生徒がかいた絵。受身表現(犬にパンをとられる)を使って説明する。

III 題名を 考えよう

犬とパン

2.4 資料 各プログラムで実施した授業の様子

①プログラム A「生活のための日本語」

位置関係を表す語彙・表現の学習

数字などのディクテーション

職員室の座席(担任団)
の写真



向陽館のルール

1. () 分の授業を1年間受けると、() 単位になります。
2. 卒業するには () 単位が必要です。
3. 45分の授業で、() 分ないと欠席です。
4. () 欠席すると単位がもらえません。
5. 分からないことがあったら学校に電話してください。

電話番号：()

6. インフルエンザ、水痘など感染症(他の人にうつる病気)になった時は、学校を休んでください。欠席にはなりません。学校に電話して担任の先生にってください。
7. 台風、大雪など天気が悪いとき、地震のときなどは学校の () を見てください。学校が休みになることがありま

②プログラムB「日本語基礎」

初級後半の文型の学習

JLPTの学習

条件形
～ば/～なら

Aさん
「あ、ノート出すの忘れちゃった...」

Bさん
「今職員室に持っていけば大丈夫だよ」

N2文法 ⑨「～以来」

向陽館に来て以来、
お昼はビッグヨーサンで買っている。

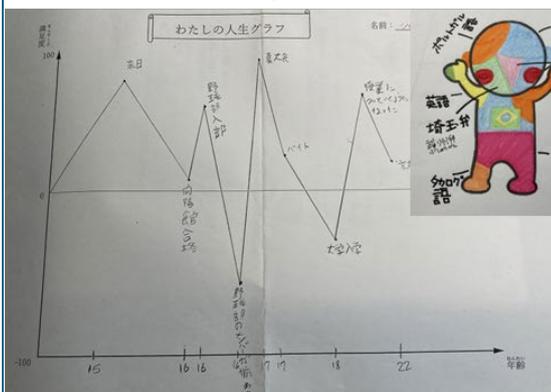
演劇部の協力を得て、
使用場面の動画を作成



③プログラムC「技能別日本語」

自分を知る・伝える

学校説明会で流す動画の作成




学校紹介プロジェクト

向陽館高校についてDVDを作ろう！

～【話す】【聞く】【書く】練習～

1. 何を紹介しますか？
- a. 日本の学校と他の国の学校の違い
- b. 勉強(授業)
- c. 先生
- d. 部活

2. 今後の予定

10/23 (火)	a 「日本の学校と他の国の学校の違い」の準備
10/30 (火)	b 「勉強(授業)」の準備

④プログラムD「日本語プロジェクト」

ニュースを見る・聞く



高校受検の体験を書く

NHKニュース 6月28日 1600

■ステップ1 ニュースを見て聞いて、分かったことをメモしましょう。

自転車に乗るときは、必ず安全ヘルメットを「正しい」方法で「きちんと」着用してください。

■ステップ2 ①～④に入ることを考えましょう。

自転車に乗る人の数が増えるにつれて、事故も増えています。3年以内に2回は講習を受けます。①「安全ヘルメット」を着けなければなりません。②「ヘルメット」を正しく着用する必要があります。

①を着けなければなりません。②「ヘルメット」を着けなければなりません。③「ヘルメット」を着けなければなりません。④「ヘルメット」を着けなければなりません。

③「ヘルメット」はこの中に詳しく、④「ヘルメット」などを詳しく説明することを入れてください。これらに関する人々の意見を聞いて、今年11月から始めたいと考えています。

③によると、④などを着用しながら自転車を運転したことが原因の事故は、2021年に93件ありました。2022年は110件、2023年は139件になって、毎年増えています。



日本語

わたしの受検体験記

★プロフィール

名前 (カノダマ))
 日本に来た時期 (2016年 9月)
 中学校 (ブリスベン中学校)
 好きなもの・好きなこと (サッカー、ゲーム)

Q1 高校をどうやって選びましたか。
 A1 学校はいろいろあったので、いろいろ見比べて決めました。

Q2 高校受検で大変だったことはありますか。
 A2 日本語を勉強することです。

Q3 どうやって準備しましたか。
 A3 学校の先生に勉強方法を教えてもらいました。

Q4 受検で楽しかったこと、大変なことはありますか。
 A4 楽しかったことは、いろいろな人と交流することです。大変なことは、日本語の勉強です。

Q5 受検生へアドバイスをお願いします。
 A5 日本語の勉強は、毎日続けることが大切です。自分ができる範囲で頑張ってください。